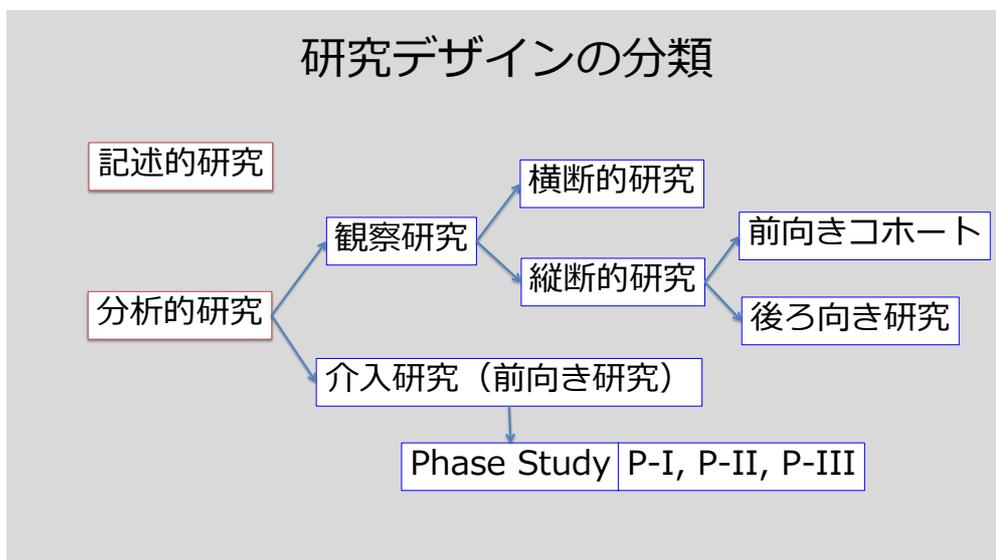
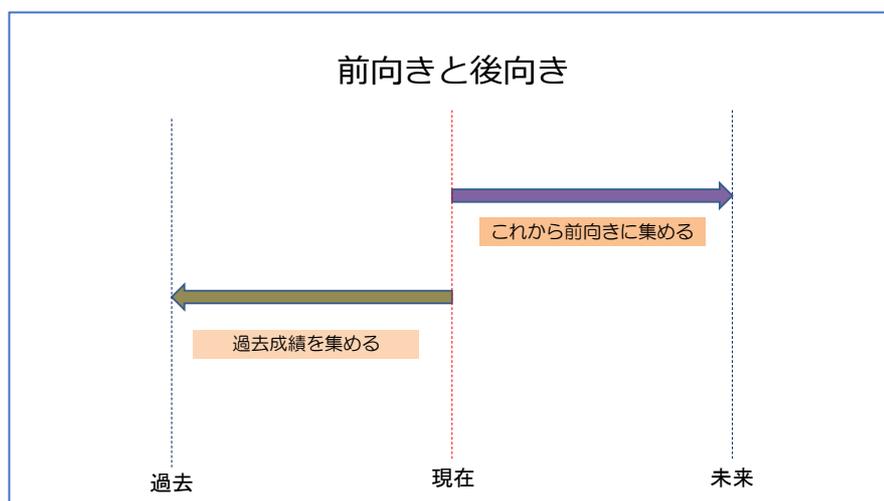


## 後向き症例集積研究 Retrospective study



- 後向き症例集積研究は「観察研究（介入しない）」、「縦断的研究（時間幅がある）」過去の症例から仮説を検証しようとする研究デザインです。
- 前向き症例集積研究はこれから介入して検証するのに対し、後向きでは過去の症例をカルテなどから調べて検証して行きます。



- 臨床研究の第一歩です。
- 仮説を立てましょう。（例：当科の胃癌治療成績は他施設に比べて良い）
- 前向き症例集積で行う第1-3相試験のお作法に準じて、後向き研究を行って下さい。
- 原則としてカルテ調査ですので、患者さんの同意は要りません。
- 集める症例数に決まりはありませんが、「仮説」が検証できる症例数が推測できていれば、どこまで過去のデータを調べたら良いのかが分かります。

- 過去の症例では欠落データが多いのが欠点です。